

磐城時報

石城郡湯本町印刷部印刷
編集長 田中 誠
印刷所 石城郡湯本町印刷部
電話 二四三
発行所 石城郡湯本町印刷部
電話 二四三
訂金 一月十四日迄
電話 二四三
電話 二四三

チブス激増に驚いて

水道布設を叫ぶ

湯本町の輿論

石城郡湯本町のチブスは今尚終愛谷江筋及び坂場を視察の上四
徳の域に至らず現在收容患者二倉町に一泊歸郷した。

依然人心不安の裡にあり同地が
時節柄より漸く各方面の來遊
者も吸収する遊覽地なれば町
當局者其他有志は目下しきりに
之が豫防撲滅に腐心しつゝある
が現在收容者中大部分の十七名
は何れも磐城炭礦社より續出
したる患者であるばかりか町内
の各旅館、料理店に於ては衛生
上最も細心の注意を拂つてゐる
ので此の方面に對する一般の來
遊には大体支障ないものと觀ら
れてゐる、因に湯本町今回のチ
ブスは何れも飲料水にその原因
を發してゐると云ふ處から平町
が現在二萬六千の人口を有する
に拘らず完備せる上水道の恩恵
を被り目下の腸チブス患者が僅
に三名に過ぎざる事實に鑑み湯
本町に於ては今回のチブス續出
を轉機として多年の懸案たる水
道の實現促進に就て一部の輿論
が喚起されつゝあるものゝ如く
である。

豊間村の 築港計劃

齋藤技師調査

豊間村では隣接江名町が工費三
十餘萬圓を以てドック式の漁港
を完成したが、港内四千坪でた
ま、豊間の船が江名に避難入
港すれば追ひ出さるゝやうな争
ひも出来てゐるため年額大敷納
り。

植田下水工事

十五日届出

植田町では工費六千八百九十圓
を計上しその半額を町負擔、殘
額は有志の寄附として下水道を新
設する事既報の如くであるが、
十五日縣に届出でた、竣工は八
月末の豫定だが本縣で下水道の
港すれば追ひ出さるゝやうな争
ひも出来てゐるため年額大敷納
り。

日勞黨結黨式

麻生、三輪其他獅子吼

縣議選に候補者擁立

日本勞農黨磐城支部結黨式は來
る七月三日午後一時から平町平
劇場を開き宣言書並に綱領等の控へ、石城労働會から適當の候
選者を擁立する準備と見られて
ゐる。

炭礦で

三日に一人死ぬ

調査部長河野密、同宣傳部長菊
川忠雄、日本坑夫組合執行委員
關家博、全日本農民組合田所輝
常磐地方各炭礦の坑内作業が落
下、同川股清音、日本坑夫組合
主事加藤勤十、日勞黨教育部長
炭礦の犠牲者となるものは相當
多敷に達してゐるが、この豫防
については資本家も労働者も充
分の注意を拂つてゐるものゝ完
壁を期す事は到底不可能事と
されてゐるが平警察署管内四十有
余の大小諸炭礦で本年一月から
十六日迄に惨死した数は百七十
七名中男百四十九名、女二十八
名です。昨十五年一ヶ年間に
惨死した九十六名の倍數に達し
てゐるがこれは去る三月磐城炭
礦町田坑の火災事件の百三十四
名、五月の入山炭礦第五坑爆發
の際十六名が死亡したためか、
多數の惨死者が出たものである
民に對しては醫師の處方箋持參

宇佐美藥局で 藥品を無料提供

平署、平町役場に陳情

平町宇佐美藥局主人は貧困者に
對し社會奉仕的に賣藥を無料に
提供し且つ醫師處方箋を以て調
劑を無料で行ふ腹案を以て計劃
提供する事の諒解を得た。

水源地視察團員募集

當面の問題たる平水道水源地並に大瀧
發電所設置箇所を對し公平なる判斷を
下す爲本社は左の如く視察團員を募る
一、六月十九日午前八時迄に好間軌道會社前
に集合の事
二、午前八時軌道乗車出發
三、中食は各自持參の事
四、乗車賃其他會費として一人に付會費四拾
錢とする
一、視察行程軌道終点下車好間發電所に直行
し發電所並に水槽水路を視察し更に大瀧
發電所出入口豫定地並に用水路敷地水槽
口を視察し軌道にて歸平す
一、實地説明者 平水道課員
一、小田炭礦當事者並に大瀧江筋管理者
一、申込 電話又は葉書の事
一、申込締切 成る可く十八日午後六時迄

四倉繭市場

六十三人、千余貫の取引

石城販賣利用組合四倉繭市場は審は終結決定し近く公判開廷の
既報の如く十六日初取引を開始
したが最高七十五圓五十錢、最
低五十八圓、買馴七十圓五十錢
であつたが総取引額は六十三人
千九貫に達したので尾形産業主
事は幸先きが好いと喜んでゐる
この分では同市場春繭取引は豫
想外の賑はひを見るであらうと

五人殺しの 實地檢證

堀江家の盛葬

内郷村白水の一家五人殺殺犯人
鈴木治八郎(四九)に就て其後福
島地方裁判所平支部遠藤藤審判
事の手により審理中の處遠藤藤判
事、窪田檢事、鳥妻書記の一行
は十五日午前九時仲里辯護士、
植村署長以下平署員一行十二名
と共に同地に出張最後の實地檢
證を行つたので愈々之を以て豫
想外の賑はひを見るであらうと

安齋巡查榮轉

平署

警察會計係安齋巡查は十七日附
で棚倉警察署會計主任に榮轉し
たが二十一日頃出發する。

堀江家の盛葬

平町

石城地方は昨年夏期の降雨少く
小名濱町を始め植付不能に陥つ
た水田多く頗る慘憺たるものあ
つたが本年も昨冬來降雨少く田
植期を控へて天水を待つ山田村
及び赤井村其他植付の早い山手
方は今年も亦早魃でないかと
憂慮されて居た處十五日午後十
時四十五分頃から石城地方一
帯に降雨あつたがその量至つて
少く昨十六日午前十時迄の雨量
坪當 一・二ミリ一即ち二斗二升
一合四勺余、過ぎざるも之によ
り水不足を緩和された事が少く
ない、而して天候は今十八日か
ら再び照り上り今後俄に雷雨の
状態に入る模様もないので水不

雨は降つたが 水は足りぬ

落磐で惨死

足の農村では依然相當戒心を要
するものがあるが今回の降雨によ
る水蒸氣の上昇により或は雷雨
が誘發し水田その他耕作物に好
影響を招くのでないかと懸念
(十六日正午小名濱測候所觀測)

▲落磐で惨死 當時内郷
村大字宮字宮澤居住秋田縣橋手
町生磐城炭礦坑夫宮木十吉(二
四)は十五日午後十一時廿分頃
高坂坑北坑二十八昇採炭作業中
憂慮されて居た處十五日午後十

落磐のため惨死した。

主 催 磐 城 時 報 社

水源地視察團員募集

當面の問題たる平水道水源地並に大瀧發電所設置箇所に対し公平なる判断を下す爲本社は左の如く視察團員を募る

- 一、集 合 六月十九日午前八時迄に好間軌道會社前に集合の事
- 二、出 發 午前八時軌道乗車出發
- 三、食 中食は各自持參の事
- 四、會 費 乗車賃其他會費として一人に付四拾錢とす
- 一、視察行程 軌道終点下車好間發電所に直行し發電所並に水槽水路を視察し更に大瀧發電所取入口豫定地並に用水路敷地水槽發電所設置場所を視察し更に平水道取入口を視察し軌道にて歸平す
- 一、説 明 者 平水道課員
小田炭礦當事者並に大瀧江筋管理者
(志賀定平君の實地縮圖對照説明)
- 一、申 込 は當日朝軌道社前にも受付
けます

主催 磐城時報社

